

## 第 11 回日本ウズベキスタン経済合同会議 議定書

2013年3月5日、タシケント

2013年3月5日、タシケントにおいて日本ウズベキスタン経済委員会とウズベキスタン日本経済委員会（以下、委員会とする）の第11回経済合同会議が開催された。

合同会議には両委員会（以下、双方とする）のメンバーが参加した。

日本ウズベキスタン経済委員会の会長は関山護丸紅株式会社代表取締役副社長兼執行役員であり、ウズベキスタン日本経済委員会の会長は R.アジモフ・ウズベキスタン共和国第一副首相兼財務大臣である。

第11回合同会議の参加者は添付のとおり（添付1、2）。

合同会議は友好的かつ建設的な雰囲気の中で行われた。

合同会議において双方は、合意のプログラム（添付3）に従って、貿易・経済、投資、財政・技術協力に関する一連の問題について検討した。

1. 双方は、日本とウズベキスタン共和国の二国間相互協力の発展に新しい刺激を与える一連の文書が調印された2011年2月8日から10日の I.A.カリモフ・ウズベキスタン共和国大統領の公式訪問の成果を高く評価した。
2. 双方は、二国間のマクロ経済指標、さまざまな経済分野の改革として実施されている施策についての情報交換を行った。
3. 双方は、日本とウズベキスタンとの間の貿易高の拡大を肯定的に評価した。同時に、これらの指標が、双方が持つポテンシャルに一致していないことが表明され、綿繊維、糸、ウラン精鉱、銅、その他を含む製品を、ウズベキスタンから日本への長期的に直接供給することを通じた二国間貿易のさらなる拡大に対する相互の関心が指摘された。
4. 双方は2009年に調印された投資の自由化、促進及び保護に関する日本国とウズベキスタン共和国との間の協定によって、投資協力が本質的に活性化したことを指摘した。

ウズベキスタン側は、日本企業のウズベキスタン共和国における投資プロジェクトの実施及び検討への参加を歓迎した。

これに関して、ウズベキスタン側は日本企業に対し、石油ガス分野、鉱物資源の探査・採掘、電気工業、自動車製造業、自動車部品生産、機械製造業、近代的な建材生産、情報技術、繊維産業、農業製品・食料品加工、銀行・金融セクター、観光等の将来有望な分野の投資プロジェクトへのさらなる積極的な参加を提案した。

日本側は、ウズベキスタン共和国における投資プロジェクトの実現や高度技術製品の生産のために直接投資や近代的な技術の誘致を支援することで一致した。

5. ウズベキスタン側は、日本企業に対して、投資活動に対するよりよい条件が設置されている「ナヴォイ自由産業経済特区」や「アングレン自由産業特区」における共同の高度技術製品の生産に積極的に参加することを提案した。

6. 双方は、二国間の経済交流における具体的な問題の調整を共同で支援し、貿易・経済、投資関係のダイナミックな発展を積極的に支援することで合意した。
7. 双方は、円借款や無償支援といった ODA による日本の財政・技術支援がウズベキスタンの社会・経済発展に大きく貢献したということで一致した。ウズベキスタン共和国政府は、ウズベキスタンに対する日本の経済支援に感謝し、この方向でさらなる協力の拡大に関心を示した。
8. 双方は JICA、JETRO、JBIC、NEXI、JOGMEC、ROTOBO の活動の枠内で活発な協力を継続することで合意した。
9. これに関して、ウズベキスタン側は、ウズベキスタンの発電所におけるコンバインドサイクル発電機の設置、鉄道の電化、および農業支援等のプロジェクトの実現に対する特恵的金融措置付与の問題を前向きに検討するよう求めた。  
さらに、双方は、保健、教育、上下水道等の分野における無償支援および技術支援プロジェクトに関する財政・技術協力拡大の可能性を検討することで合意した。
10. ウズベキスタン側は、2013年5月の農業ミニテクノロジー展「ウズベキスタン・アグロミニテック 2013」や2013年10月の第7回国際産業見本市・企業提携会への参加を呼び掛けた。
11. 双方は、2014年の双方の都合の良い時期に、第12回日本ウズベキスタン経済合同会議を東京で開催することで合意した。

本議定書は同一の効力を有する日本語とロシア語各2部が作成され、2013年3月5日、タシケントにおいて調印された。

関山護

日本ウズベキスタン経済委員会会長/  
丸紅株式会社代表取締役副社長兼執行役員

ルスタム・アジモフ

ウズベキスタン日本経済委員会会長/  
ウズベキスタン共和国第一副首相  
兼財務大臣